

異文化体験 フライブルク大学「日本人学生のためのサマープログラム」

フライブルク大学国際局が主催する「日本人のためのサマープログラム—ドイツ語とドイツ文化」が今年度も8月6日から28日までの約3週間開講された。本学の学生5名が初めて受講した2000年以来12回目を数え、今年度は20名の2年次生が参加した。今回は日本全国各地から昨年を上回る申し込みがあったそうで、キャンセルが出なかったこともあり定員通りの参加者数になった。

フライブルク大学国際局では、毎年20名以上の参加者を送り出している本学のために特別プログラムを用意していただいているが、今年度はフライブルク大学薬学部でミニ講義、研究室見学が同大薬学部の協力のもと行われた。海外の大学の本部と学部が特定の大学の短期留学者のために便宜を図るようなことは普通では考えられないが、これも長年の実績によるものである。フライブルク大学のサポート体制も万全で、大学構内には日本人・ドイツ人スタッフが常駐する参加者専用の控室が用意されている。問題が発生した場合は昼夜を問わずスタッフが対応する即応体制が整えられており、海外渡航未経験者でも安心して参加できる様々な心遣いがなされている。

今回のサマープログラムに参加した2年次生の代表に「異文化体験」というテーマでドイツでの体験や思い出を投稿してもらった。これを読んでサマープログラムに興味を持った人は是非とも次の夏休みにチャレンジしてほしい。2013年度から一定の条件を満たした参加者には海外語学研修の単位が認定されることになっている。教室での授業は午前中で終了、午後には連日楽しいレクリエーションプログラムが用意されている。また週末には州内の都市、フランスやスイスへの日帰りバス旅行(料金は受講料に込み)が予定されている。それにオプションとしてビールの町ミュンヘンとノイシュヴァンシュタイン城への遠足も予定されている。200名を超す先輩たちが熱い異文化体験をしたフライブルクの町が皆さんの来訪を待っています。

ドイツ語担当准教授・日本フライブルク・アルムニ会会員 桑形 広司

Reise nach Deutschland.

2年次生 今吉 菜月

「どうしよう！」そんな一言から始まった、フライブルクへの旅でした。海外なんて初めて。不安いっぱい、でもワクワク。私にとって新たな挑戦でした。

フランクフルト空港に到着。一気にドイツ語の世界へ。英語が苦手な私。でもドイツ語はペラペラ…そんなことはありません。入国審査では、にこやかなお兄さんに英語で喋りかけられ、単語で会話。素敵なお兄さんは「頑張ってるね！」と応援して下さいました。

フライブルク大学での授業は、学力別に分かれた10人ほどのクラスでみっちり授業。そんな私は、Cクラス。なんと、上から3つ目！もちろん、先生は日本語が喋れませんし、全てドイツ語、たまに英語。最初の頃は、分からないことばかりで大変でした。まず聞き取り、意味が分かること。次に、話せること。ということで、メインは会話中心。もちろん、文法的なこともテキストを使いながら学びました。最初は全く成り立たなかった会話。しかし、徐々に会話が出来るようになりました。相手の話が理解出来ても、いざ自分が話すとなると上手く話せない。

そんな葛藤もありました。でも、先生やクラスメイトは素敵な人たちばかり！みんなで市場に出かけて買い物をしたり、フルーツサラダを作って食べたり。なんと、誕生日には先生のお宅に招いて頂き、クラスみんなから祝ってもらいました！滅多に経験することの出来ない、記念すべき誕生日となりました。

ドイツでの生活はとても刺激的でした。真っ昼間から、ビール瓶片手に歩いているお兄さん。アイスを片手に街を歩く人々。食事の量の多さ…。甘党な私は、色んなアイスやケーキ(有名なのは黒い森のチェリーケーキ)をいっぱい食べました。ドイツと言えばビールやソーセージを思い浮かべるだけあって、とても美味しかったです。

寮では、何カ国語も話せるイタリア人の女の子、背が高く優しいドイツ人の男の子、お茶目な中国人の男の子、笑顔が素敵なおロシア人の女の子と一緒に生活をしました。たどたどしい英語やドイツ語しか喋れない私を、温かく迎えてくれ、色々助けてもらいました。一緒に片付けや掃除をしたり、ちょっとお菓子を食べたり。伝えたいこと全てを伝えることは出来なかったことが悔しいですが、とても楽しく過ごすことが出来ました。

初めての海外。全ては、このプログラムを紹介して下さいました桑形先生をはじめ、フライブルクでの生

活のサポート、数多くのレクレーションを企画して下さったスタッフの方々、クラスの先生や仲間たち、寮のみんな、友達や家族に本当に感謝しています。Vielen Dank!



ミュンスターから



歓迎パーティーにて



先生宅にて

ドイツ留学を終えて

2年次生 荒木 悠

私は、この夏の8月にドイツのフライブルクに桑形先生の紹介で短期留学をさせていただきました。実は自分はこの京都薬科大学に入学した時から今回の6年のうちに一度は短期留学をしようと考えていたのでこのプログラムの存在を知った時から、絶対に行こうと心に決めていました。

とはいっても心にそう決めたものの自分にとってこれが初めて長期での海外滞在にもなるとあり、留学が決まってからは今まで好きだった語学により一層力をいれて勉強したりしたものの正直最初は不安がありました。しかし実際向こうでの授業は先生がほとんどドイツ語のみでしたが分からないことがあればこちらが拙いドイツ語で質問してもわかるまで

説明してくれたり、向こうでできた日本や違う国の留学生の友達とそういうことを通じて仲良くなれたりしました。

ドイツでは様々な忘れられない経験をさせてもらいましたが、その中でも私がもっとも思い出深いのはサマーコースの授業が全て終わった後に個人的に行った一人でドイツぶらり旅をした時のことです。以前から剣道の先生にハイデルベルクは良い町だから時間があれば行ってみなさいと言われていたので、自分がドイツで身につけた語学の力がどれくらい実践できるか試してみたいとも思っていたので計画をたてて行ったのですが朝からトラブルが起きそうになったときに留学期間に偶然親切にした人に出会い事情を説明すると助けてもらえたり、DB(ドイツ鉄道)に乗っていると日本びいきのドイツ人家族に声をかけられ楽しい電車の時間を過ごせたりできました。またハイデルベルクの街並みも初めて見るドイツの古城は美しかったです。また薬学発祥の地であるドイツで個人的にですが薬事博物館にいたりスイスのバーゼルのノバルティスにも見学に行ったり、今年はフライブルク大学のご厚意でドイツの薬学部の研究施設と薬学部の制度を説明していただき、薬学部の学生としては非常に良かったかと思えます。

私が今回の留学で感じたのはドイツのお国柄もそうですが、国は違えど人と人とのコミュニケーションに必要なのは真摯な態度で自分の伝えたいことをしっかり伝えるという日本では当たり前に行っていたことを再確認し人との繋がり的重要性を再認識できたことです。また実際最後にはルームメイトと簡単なドイツ語ですが世間話をしたり、逆にこっちが日本語を教えたりすることもあったのですが、その時に改めて自分の国のことはしっかりと説明できるようになりたいと感じました。実際日本に帰ってから向こうでできたドイツ人の知人とも会うことがあるのですがその度自分の勉強不足を感じてしまいます。またいつかドイツに行く際には今回の経験をもとによりドイツの事を知れるようになりたいと思います。この夏は協力してくれた皆様のおかげで忘れられない一生の宝物になりそうです。



薬学研究施設見学 集合写真



エメンディガーにてワインフェス

サマープログラムに参加して 2年次生 安 瑛葉

この夏、私はドイツのフライブルクという街で過ごしました。平日の午前中は授業を受け、午後にはスタッフの方々が準備して下さったレクリエーションを楽しみました。レクリエーションでは教会に行ったり、バーベキューをしたり、フライブルクの自然に触れることもできました。また週末旅行というものにも参加しました。スイスではラインの滝を見て、フランスのストラスブールではノートルダム大聖堂に登り、ミュンヘンではニュンフェンベルク城やノイシュバンシュタイン城を観光することができました。

普段は朝9時から12時半まで間に30分の休憩を挟み2コマ、ほとんどがドイツ語で授業は行われ、生活で使う会話を中心に「とにかく声に出す!」を motto にペアを組んで会話の練習をしたりゲーム形式で楽しく学んだり、時には街へ出て現地の人々との交流を通して学びもしました。ドイツに着いた当初は何もかもわからず身振り手振りで行っていた会話も、1週間、2週間と経つうちに少しずつではありますが会話をできるようになり、とても楽しく嬉しい毎日を過ごしました。

この期間、何よりも楽しくて思い出として残ったのは、クラスメートと過ごした時間でした。

ある日の午後、シュニッツェルヤクトというウォークラリーに参加しました。クラス対抗のウォークラリーで、フライブルクの街を歩きながらウォークラリーを楽しみつつ、途中で寄り道をしてアイスクリームを食べたりソーセージを食べたり…。そこから生まれる何気ない会話はとても楽しく、クラスメートの新たな一面も見ることができて日を重ねるごとにさらに仲良くなり、最後には日本に帰ることがとても惜しくなりました。

ドイツでの生活も残すところあと2日になり、クラスでパーティーをすることになりました。パスタや

ハンバーグなどを自分たちで作って、美味しい料理とドイツビールを楽しみながら1ヶ月間にあった出来事や思い出を朝まで話しました。またそこでは、日本に帰ったあとも連絡を取り合ってたまには旅行にも行けるといいなと話もしました。短い期間ではありましたが、毎日のように顔を合わせるうちに親しくなり打ち解けて、日本に帰って2ヶ月以上経った今でも連絡を取るほど、とても良い関係を築くことができました。ドイツでの生活は勉強も観光も食事もどれもとても楽しかったのですが、やはり新たな人、クラスメートであったりドイツ人スタッフの方々との繋がりをもてたという点で、今回のサマープログラムに参加して本当によかったと思います。



ホッホ城にて

ドイツでの観光の思い出 2年次生 大堀 健史

ドイツでの思い出は1ヶ月という短い期間でしたが、たくさんあります。まず、一番楽しかった思い出は、8月15日にフランクフルトで開かれたサッカードイツ代表対アルゼンチン代表の親善試合をスタジアムで観戦したことです。

ドイツのスポーツといえばサッカーということで、本場の雰囲気味わってみたいと思い友達と個人的に行ってきました。僕はドイツ代表を応援していたのですが、キーパーがレッドカードで一発退場になってしまった影響もあり、残念ながらアルゼンチンが3-1で勝ちました。この試合は親善試合ということもあり、現在のドイツ代表の中心選手であるラームやポドルスキは各選手の事情により召集されていませんでした。しかし、クローゼやエジル、メッシ、アグエロなどトップレベルの選手たちを間近で見ることができました。また、もう引退した選手ですが、ドイツのオリバー・カーンが解説者として来ていました。試合会場の雰囲気もすごくよく、90分間があつという間でした。貴重な体験ができ、とても楽しかったです。



オリバー・カーン



ドイツvsアルゼンチン試合風景



ミュンヘン新市庁舎



ノイシュバンシュタイン城

次に印象に残っているのはミュンヘンとノイシュバンシュタイン城に旅行に行ったことです。この旅行は個人的にではなく、サマープログラムの週末旅行に申し込んで行きました。ミュンヘンではさまざまな観光名所に行ってきました。ブンデスリーガのバイエルン・ミュンヘンのファンショップや新市庁舎、BMW博物館、ニュンフェンベルク城などを見ました。新市庁舎の時計は仕掛け時計になっており、11時と12時に人形が踊ってくれました。この仕掛け時計を見るために、新市庁舎前のマリエン広場は時間が迫ってくると観光客でいっぱいになっていました。BMW博物館はBMW本社の近くにあり、車だけでなく、二輪車や飛行機のエンジンなどもあり、とても多くの展示物がありました。ニュンフェンベルク城はニュンフェンベルク宮殿ともいい、城というよりは本当に貴族が住むような宮殿という印象を受けました。ここはミュンヘン中心部から少し離れており、広大な庭園内を散歩やランニングしている人もいました。宮殿はバロック様式の建物で、現在もヴィッテルスバッハ家の当主の老人が1人で住んでおり、その居住スペース以外が観光客に公開されているそうです。

ミュンヘンと同じバイエルン州にあるノイシュバンシュタイン城はディズニーランドの眠れる森の美女の城のモデルの一つとしても知られており、とてもきれいな城でした。個人的に行くのが難しい観光地だと聞いていたのでサマープログラムにこのツアーがあってよかったと思いました。観光や旅行のことばかり書きましたが、ドイツ語でドイツ人に道を尋ねたり、買い物のときにドイツ語を話したりして、一般のドイツ人と話すことができ、楽しみながらよい経験ができました。

ドイツの思い出

2年次生 岡崎 静乃

大学に入って初めて勉強するドイツ語、基礎演習で選択していた「ドイツ文化ゼミ」を通してドイツについて知っていくにつれてドイツにすごく興味が湧いてきました。そんな時このサマープログラムを知ってドイツに行ってみたいと思うようになりました。

このドイツ留学は私にとって初めての海外でした。生活面でも言葉の面でも不安がありましたがドイツの寮に到着するとルームメイトが話しかけてくれて、分からないことは何でも聞いてと言ってくれる優しいルームメイトで緊張がほぐれました。

フライブルク大学でのドイツ語の授業は、はじめの頃は先生の言っていることが全く分からなくて3週間も授業を受けられるのかと不安にもなりましたが、日を重ねるにつれてだんだん先生の言っていることも分かってくる、自分の言いたいことも何とかドイツ語で言えるようになってくると授業がとても楽しくなってきました。授業は教室で行われるだけでなく、実際に市場やお店に行き、教室で習ったドイツ語を使って買い物をしたり、お昼ご飯を注文したりする授業もありました。そのおかげで学校が終わってから自分たちだけで買い物をしたりするときも積極的にドイツ語を使って生活できました。なか

なか伝わらなくて、どう言ったら伝わるのかと苦労するときもありましたが、やっぱり自分の伝えたいことを相手に伝えることができると、とてもうれしくて、もっとドイツ語を使って話をしたいと思えるようになりました。ルームメイトと話せることもだんだん増えてきて会うのが楽しみになりました。ドイツでは周りの人がとても親切で何かしてもらったたびに”Danke. (ありがとう)”と言いました。ドイツの生活にも慣れてきた頃、お店で買い物をしていると、おじさんに「子どものプレゼントにするにはどっちがいいと思う？」と聞かれることがあって、それに片言のドイツ語で答えると私に“Danke”と言ってくれたことがありました。ほんの少しの会話でしたがドイツ語で会話できてありがとうといわれたことと、ドイツに来て人の役に立ててすごくうれしかったことを今でも鮮明に覚えています。

ほかにもいろんなところに行ったり、ドイツの料理を食べたり、とても刺激的で楽しい毎日を送ることができました。この夏貴重な体験ができたことを感謝しこれからの生活に生かしていきたいと思います。



チューリッヒにて



ボーデン湖にて

Vielen Dank!!!!

2年次生 安達 未稀

2012年8月!ドイツの旅!!!

私がこのドイツ留学プログラムに参加した理由は、広い視野を持った人になりたい!そんな気持ちか

らでした。1ヶ月間という短い期間の中で、私が感じたドイツの生活について少しお話ししたいと思います。

初めての海外留学ということもあり、すごく不安な気持ちを抱えてドイツ入りしました。寮に付いたのは真夜中0時。ルームメイトの存在気配は皆無。これから1か月こんな不安な状態で過ごすのか、もう帰りたいと1日目で日本シック…ですが、そんな不安は一瞬で吹き飛びました。次の日ルームメイトと会うと「Hello!」と今までも友達だったかのように話しかけてくれました。ドイツの人は本当に優しく、街角で会った知らない人にも目が合うと「Hi!」と挨拶されたり、困っていると親身になって助けられたりと人の優しさはこんなにも温かいものなのかと初めて感じ、感動でした。

大学の授業では、ドイツ語のみの授業でしたが先生もジェスチャーなどでわかりやすく教えてくれました。日常会話などを中心に勉強したので授業にも身が入りました。一番印象に残っているのは、授業中にアイスの買い方を教えてもらい、実際にアイスを買うに行くという課外授業をしたことです。授業で習った表現が実際に通じたときはすごく嬉しかったし、ドイツの人と会話できたときは本当に感動でした!!!!言葉は違ってもお互いに理解しようとするれば伝わるということを体験できました。

この留学を通して、人の優しさや、気持ちは伝わるということを実に深く体験することができました。ドイツ留学は自分にとって勉強になることがたくさんつまっていました。今までの自分よりも大きく視野が広がった気がします。そして学んだことをこれからの人生に生かしていきたいと思います。ドイツスタッフのみなさん、他大学の友達、私のドイツ留学で出会ったすべての人にありがとうという気持ちでいっぱいです。幸せな時間を過ごせました。ありがとう!!!! Vielen Dank!!!!



フライブルク大学前にて

(注) ドイツでは18歳以上の飲酒は合法です